



日比谷セントラルビル リボーン記念イベント

山下泰樹氏×幅允孝氏

「歴史・未来・人」をつなぐ、「リボーン」プロジェクトの可能性を開催

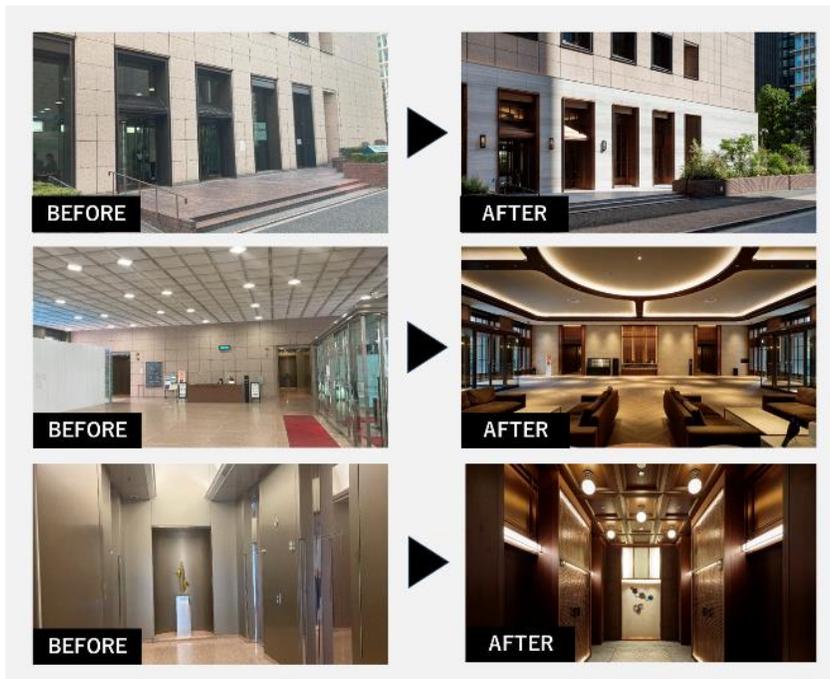
12月19日（木）17:30 於:日比谷セントラルビル（東京・日比谷）

三井物産都市開発株式会社(本社:東京都港区、社長:土原 伸)は、日比谷セントラルビル(東京都港区西新橋一丁目2番9号)のリボーンプロジェクトの完了を記念して、12月19日(木)17時30分より、リボーン記念イベントとして今回のリニューアルを担当したデザイナー・建築家の山下泰樹氏と、ブックディレクター幅 允孝氏によるトークイベント「歴史・未来・人」をつなぐ、「リボーン」プロジェクトの可能性」を開催いたしました。



1983年に建設された「日比谷セントラルビル」は、「『壊す』から『活かす』へ」をコンセプトに2024年2月よりデザイナー・建築家の山下泰樹氏による大規模リボーンプロジェクトを実施しておりました。

リボーンでは新しい顔となるファサードは大理石で統一、竣工当初から残る外観と新旧が融合し、日比谷の街並みと調和するインテリアで上質かつクラシックな空間に生まれ変わりました。



日比谷セントラルビルのリボーンプロジェクトの完了記念イベントとして、今回のプロジェクトをはじめ「ミカン下北」の企画・デザインや、代官山の「Villa ASO」の再設計などを手掛けた山下泰樹氏（DRAFT代表。山下泰樹建築デザイン研究所 主宰）、人と本との偶然の出会いを誘発させる場を手掛ける幅允孝氏（有限会社BACH代表取締役）による記念トークイベントが「歴史・未来・人」をつなぐ、リボーンプロジェクトの可能性」をテーマに開催され、お二人によるトークが繰り広げられました。



■ 山下泰樹氏コメント



日本では新築や建て替えが多いが、リボーンによって古いことを受け入れて活かしながら、ディテールまでこだわり人の手仕事を感じるような空間をつくることで経年にも対応する。だからこそ建物を長く使うことができ、環境にも経済的にもとてもいい。新しくしていきただけではない空間のあり方を今後も追及していきたい。

■ 幅允孝氏コメント



忙しくて本というものが人の日常から離れてきてしまっています。そういう事実から目を背けず、本を読みたくなるようなコンテンツ、環境、モチベーションをつくっていく仕事をしています。基本的に本は先人たちの言霊。そんな過去を未来のために作用させること自体が、リボーンになると思っています。



デザイナー・建築家

山下 泰樹



ブックディレクター

幅 允孝

日比谷セントラルビル リボーン記念イベント

「歴史・未来・人」をつなぐ、“リボーン”プロジェクトの可能性

山下 泰樹 (やました・たいじゅ)

1981年生まれ、東京都出身。2008年にDRAFTを設立。インテリア・建築のデザインを中心に都市から家具づくりまで幅広いフィールドで活躍するデザイナー・建築家。「空間は人を中心にデザインされるべき」という思想のもと、都市・建築・空間を再定義、再設計し続けている。Best of Year Awards、SBID Awardsなど多数受賞。



ミカン下北



OCA TOKYO

幅 允孝 (はば・よしたか)

人と本の距離を縮めるため、公共図書館や病院、動物園、学校など様々な場所でライブラリーを制作。時間の奪い合いが激しい中で本を手に取りたくなる環境とモチベーションをつくることを心掛けている。安藤忠雄氏の建築による『こども本の森中之島』ではクリエイティブ・ディレクションを担当。最近の仕事として「ミライエ長岡互尊文庫」や「早稲田大学国際文学館(村上春樹ライブラリー)」での選書・配架など。NHKで放送された『理想的本箱 君だけのブックガイド』では「理想的本箱」選書家として出演。京都「鈍考/喫茶芳」主宰。



鈍考 donkou



早稲田大学国際文学館

■日比谷セントラルビル リボーン記念イベント 概要

テーマ：「歴史・未来・人」をつなぐ、リボーンプロジェクトの可能性

主催：三井物産都市開発株式会社

日時：12月19日(木) イベント17:30-18:30 (受付開始17:00) 懇親会19:00-20:00

場所：日比谷セントラルビル [トークイベント]1階エントランス [懇親会]3階 THE LOUNGE

参加者：山下 泰樹 氏 (DRAFT 代表。山下泰樹建築デザイン研究所 主宰)

幅 允孝 氏 (有限会社BACH代表取締役)

ゲストMC (ファシリテーター) 田中 沙朋